未来シナリオ24
集中から分散へ

軽くなる住まい

関連シナリオ　㉕快適になる移動　㊱ｶｰﾎﾞﾝﾆｭｰﾄﾗﾙな暮らし　㊳安全を支える強靭な基盤

住む場所を自由に選べるようになり、多拠点で生活する人も増加する。居住地の流動化に伴い、持ち家志向が薄れ、中古住宅をリノベーションし、モノはなるべく少なく、シンプルに暮らす志向の人が増える。

住む場所を自由に選ぶ

仕事が住む場所を決める時代は終わり、ライフステージの変化や自分の価値観に基づき自由に住む場所を選んでいる。定住が一般的ではなくなる。多拠点で居住・生活できるサービスが普及し、気候や風土が違う兵庫五国の四季折々の良さを味わいながら暮らす人も増えている。

自分好みのシンプルな暮らし

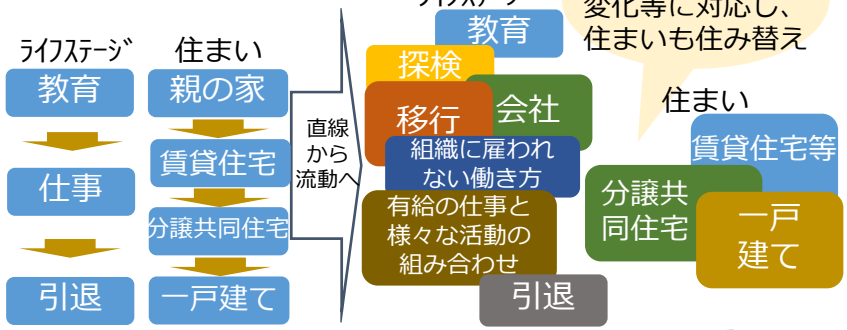
居住地の流動化により、動きにくくなる持ち家志向が薄れ、重たい住宅ローンを避ける人が増える。一方で、中古住宅を自分好みにリノベーションして住んだり、モノは少なく、シンプルに暮らすことを志向する人が増えるなど「軽く住む」スタイルが定着している。

住まいを失わない安心

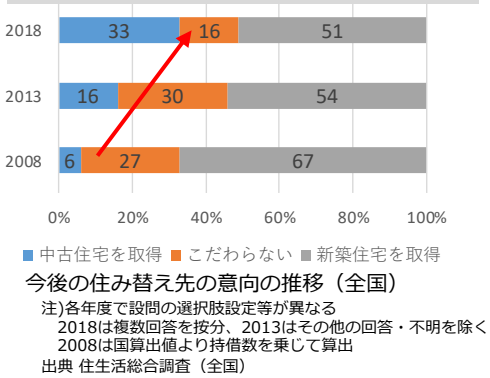
低所得者やひとり親、高齢者、再チャレンジする人などに、地域団体やＮＰＯが空き家をリノベーションしたオシャレで低家賃の住宅を提供している。公的住宅や家賃支援なども行き渡り、住まいを失うことなく安心して住める環境が整っている 。そこでは、弱者を排除・分離するのではなく、多様な人たちが混じり合いながら生活を共にしている。

参考情報

◆住まいは流動化する



◆既存住宅を志向する層の増加



今後の住み替え先の意向の推移（全国）

注)各年度で設問の選択肢設定等が異なる
2018は複数回答を按分、2013はその他の回答・不明を除く
2008は国算出値より持借数を乗じて算出

出典 住生活総合調査（全国）

◆住宅要配慮者のための取組

- 空き家等を活用し、以下の３本柱でセーフティネット機能を強化
- 福祉と住宅の連携などによる取組の一層の強化が必要

経済的支援　登録制度　入居支援

（研究会意見）住宅がすべて商品化すると不安定になる。脱商品化の住宅も供給する必要がある。

◆多拠点での暮らしの可能性が広がる

全国の拠点での住み放題定額サービスが登場するなど多拠点での暮らしが可能に。

例：ステートアップのADDressは、
月額４万円から定額でサービスを展開

五国の風土を楽しみながら暮らすことが可能に

（研究会意見）固定化の発想ではなく、むしろ、移動を促進する仕組みが必要。

◆多世代共生でにぎわうまちづくり

高齢者施設の整備においても、単独の施設をつくるのではなく、周辺に温泉やレストラン、図書館など、地域にひらかれたスペースを設け、多世代が共生できるまちづくりが行われる例が出てきている。

コミュニティスペース

出典：国土交通省「第50回住宅宅地分科会 資料8-4居住者をめぐる状況4,5」(2020.2.18)